

## 実践団体情報

記入日	西暦 2022 年 1 月 10 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
代表者名	近藤 鉄郎
プラン全体のタイトル	教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発 —町内防災運動会をととした「地域発」の学び—
電話番号	0566-36-8511
メールアドレス	igaya-s.m.k@agate.plala.or.jp
実践団体の説明	井ヶ谷町内会は、市内でも地域活動が盛んな自治会といわれており、体育部は町内会有志により組織された約 25 名の団体である。体育部が中心となって運営する最も大きな町内行事が防災運動会で、第 40 回記念大会を迎える歴史がある。
所属メンバー	[代表・広報担当] 近藤 鉄郎 (体育部長補佐/LOGOS ) [実践担当] 佐々木 由香 (体育部長補佐) [実践担当] 樋江井 守 (体育部長) [統括担当] 生畷 亜樹子 (山口大学教育学部・准教授)
活動地域	愛知県刈谷市井ヶ谷町
活動開始時期・結成時期	1979 年 (第 1 回町内運動会実施年)
過去の活動履歴・受賞歴	防災教育チャレンジプラン・2020 年度
プラン全体の概要	○ 本実践は、愛知県刈谷市の北部に位置する、井ヶ谷町 (人口約 5,000 人)の町内会の有志によって組織された体育部を中心とした活動である。町内に災害時の指定避難所でもあり実践の交流先である、教員養成大学(学生・教職員の最大数約 5,000 人)を有する。自宅通学生が多いという特徴もあり、町内に対して多くの学生「学内のバス停から、来て帰って行くという通過するところではない」「全然関わりが無い」(学生インタビュー・2019 年)という意識をもっていた。 ○ 対して井ヶ谷町には、「井ヶ谷町を好きな方がものすごく多く」(体育部インタビュー・2019 年)、地域住民と学生との交流が少ない現状を「すごくもったいない」(同)と

	<p>感じており、「学生さんを自分の町内で育てて、立派に先生になる」(同)、そのことが「双方にとって生きていくうえでの財産になる」(同)ことを期待する、熱い思いがある。</p> <p>○ このように教員養成大学をもつ町内で醸成されてきた、地域にある潜在的な「教育の力」を背景に、地域住民と学生が平時より顔を知り、声を掛け合える関係性を築き、有事の際に助け合えるよう、そのきっかけとしての防災運動会を、実践活動の中心とした。</p> <p>○ 活動をとおして、現行学習指導要領で一層重視されている、防災教育の将来的な担い手としての知識・技能を身につけるための支援を行うことを、実践活動の主たる目的とした。地域の教員養成大学の学生の町内防災運動会への参画をとおして、地域住民が防災意識を高めること、指定避難所の運営につながる知見や体験の獲得が期待される。</p> <p>○ 学生の対面による活動の規制が緩和された今年度は、年度当初より、学生がまずは井ヶ谷町内を知るために、既存の町内行事に参加してもらうことから始めた。</p> <p>○ 体育部が企画する町内運動会、新春ウォーキングのうち、実践の中心としていた運動会は中止となったが、新春ウォーキングに地域防災につながる活動、大学や学生との連携による活動を盛り込み実施した(参加者約200名)。</p> <p>○ その他、大学から依頼を受け子ども向け防災講習会を実施した。</p> <p>○ 将来的には、町内防災運動会への参画を中心とした地域活動全体を大学の授業の単位として位置づけ、継続的な町内と大学の連携・協働のもと、地域に根ざした防災教育の年間プログラムの開発に取り組む(2022年度施行実施が決定)。</p>
--	---

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	大学・町内の会議①	体験活動調整	学生歓迎会【実践 1】
5月			町内体験活動(1)
6月	大学・町内の会議②		町内体験活動(2)
7月			
8月			
9月		防災運動会準備	
10月		防災運動会準備	町内体験活動(3) 防災運動会(中止)【実践 2】
11月	大学・町内の会議③		
12月		新春ウォーキング準備	防災講習会【実践 3】
1月	まとめ・次年度計画		新春ウォーキング【実践 4】
2月	まとめ・次年度計画		
3月			町内体験活動(4)

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>○ 防災運動会は昨年度と違って直前の中止判断であったため、大学との連携と準備のほとんど全ての過程を関係者で実践・共有することができた。また、代替企画として実施した大学キャンパスをコースとした新春ウォーキングは、防災を前面に出した行事として実践できた。</p> <p>○ コロナ禍においても、学生団体（地域サークル）と連携して活動を積み重ねることができ、2022年度から試行的に授業の一環として学生の町内での活動を実施することになった。</p>
今後の活動予定	<p>○ 2年間中止となってきた町内防災運動会の第40回記念大会の実施へ向け、町内会体育部と学生が連携して実践に取り組む。</p> <p>○ 井ヶ谷町内の活動をとおして学生が学んだことを聞き取り等で整理し、防災教育年間プログラムとして集約する。</p>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 1 月 10 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 1
タイトル	防災教育年間プログラムの単位化へ向けた教員養成大学の学生サークルとの連携 (井ヶ谷町内体験活動)
実践担当者のお名前	樋江井守 (井ヶ谷町内会体育部長) 村川直也 (愛知教育大学学生団体 かきつばたの民 代表)

実践にかかった金額	10 万円未満	円
実践の準備にかかった時間	数週間	
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 4 月 1 日～西暦 2022 年 3 月 27 日	
実践の所要時間	7 回の活動の合計で 30 時間	
実践の運営側で動いた人の人数	15 人	
防災教育の対象者の属性	大学生・地域住民	
防災教育の対象者の人数	約 100 人	
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町	
実践を行った具体的な場所	愛知県刈谷市井ヶ谷町 愛知教育大学 (井ヶ谷町内)	
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等		

達成目標	教員養成大学の学生が、将来の防災教育の担い手となるための知識・技能を身につけるため、井ヶ谷町内や大学を実践の場として地域住民と連携しながら、町内の人・もの・ことを知るための活動を行う。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

## 実践内容・方法

2021年5月に大学の公認団体となった学生団体「かきつばたの民」と連携し、学生が井ヶ谷町内をよりよく知ることをねらいとして、年間をとおして、既存の町内会の活動の一部を、新たに学生の参加・協力のもとで行った。

## ① 愛教大生歓迎会（2時間）

概要：学生団体「かきつばたの民」の企画・運営による開催。町内会役員（地区長・公民館長）が参加し、井ヶ谷での生活についての講話を行った。2021年4月8日18時30分より井ヶ谷市民館で開催。参加者は、下宿学生・自宅生／1年生・2年生以上を含め約30名。  
活動のねらい：学生の生活の場となる井ヶ谷地域の様々な場所や人を知るきっかけをつくる。特に下宿学生は生活する上での不安や困りごとを解決する場として、地域住民や下宿学生同士のつながりをつくり、年間をとおした井ヶ谷町内での活動の見通しをもつ。



ゴミ袋を見せながら不燃物の捨て方を説明する地区長

## ② かきつばた除草／春（8時間／1回）

概要：地元有志により1976年に結成された「かきつばたを守る会」による保護活動。年に2回（4月・9月）の除草作業を企業や学校などのボランティアの協力のもと実施している。4月24日（土）に「かきつばたの民」の学生6名が参加。茶屋川園ビオトープの清掃も同日に実施。

活動のねらい：井ヶ谷町内の国指定天然記念物 かきつばた群落と、それを守るための活動を知り、共に除草作業を行うことをとおして、地

域住民と交流する機会をもつ。学生が、町内で顔と名前がわかり日常の交流をもてる関係づくりのきっかけとしたい。



国指定天然記念物 小堤西池のカキツバタ群落

### ③ かきつばた巡視・見学（3時間／1回）

概要：「かきつばたを守る会」によるかきつばた開花時期における見学者への案内・巡視活動の見学。期間は 5月上旬から下旬（9時から16時頃まで実施）、常時、守る会メンバー5、6名が参加。2021年度は「かきつばたの民」の案内とフォトコンテストの企画により、平日に多くの学生が見学した。

活動のねらい：井ヶ谷町内の国指定天然記念物かきつばた群落に多くの見学者が訪れていることを知り、見学者に対する案内と巡視活動の内容を理解し体験する。地域の自然のよさと、その魅力を守り伝えようとする住民の活動にふれる。



かきつばたの写真撮影する学生たち

④ 子ども会ホタル放流（2時間）

概要：子ども会の行事として、地元企業の協力のもと管理されている茶屋川園ビオトープで行っているホタル放流会。小学生を中心に約40名の子どもと保護者が参加。5月5日（祝）に学生5名が参加し、子どもたちの誘導や放流の支援などを行った。

活動のねらい：地域の子ども会の行事について理解し、子どもたちとふれ合いながら共に活動を行う。また、子ども会の行事の実施を支える地域住民の活動や、町内会と行政や企業との連携・協働のあり方について理解し、体験する。



子どもたちの誘導をする地域住民と学生

⑤ 体育部芋植え（3時間）

概要：体育部の行事として行っている活動。2021年5月23日（日）に実施。畑の所有者による植え方の指導を受けて、参加学生が約100本の苗を植える活動に参加する。町内の参加者は、体育部約15名。  
※現在、畑の所有者が収穫までの世話をしているが、今後は学生の参加や授業での活用も歓迎とのこと。

活動のねらい：自然と触れ合いながら農作業の楽しさを体験し、井ヶ谷地域の住民の生活の場や様子を知り、地域住民との交流を深める。

⑥ 体育部芋掘り（3時間）

概要：体育部の行事として行っている活動。2021年10月24日（日）に実施。鍬の使い方について指導を受け芋掘りを体験する。収穫した芋は当日の参加者に配布した他、1月の新春ウォーキングの

	<p>焼き芋として使用。町内の参加者は、体育部約 15 名。</p> <p><u>活動のねらい</u>：自然と触れ合いながら農作業の楽しさを体験し、井ヶ谷地域の住民の生活の場や様子を知り、地域住民との交流を深める。</p>  <p>指導を受けながら鍬を初めて使う学生</p> <p>⑦ SUHARA MUSIC FES（10 時間・3 月 27 日実施予定）</p> <p><u>概要・活動のねらい</u>：地域の音楽祭の準備・運営に学生が関わりながら、地域住民の文化活動について理解を深める。</p> <p>その他、実践 2 の町内防災運動会（2021 年度は中止）、実践 3 の新春ウォーキングも一連の活動に位置づく。</p>	
<p>得られた成果</p>	<p>○ 年間でおおよそ 100 名（実数で約 40 名）の学生が、井ヶ谷町内会の活動に参加し、地域に足を運び、地域の人を知るきっかけづくりができた。学生の感想・町内サイドの学生参に対する受け止めは、双方において好評で、継続的な連携が見込まれる。</p> <p>○ 年間をとおして学生の町内を実践の場とした活動を実施した成果をもとに、2022 年度の愛知教育大学の授業（選択必修）として、既設の「実践力育成科目・自然体験活動」に「井ヶ谷町内会コース」を新設し、試行的な形ではあるが単位化が実現することになった。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>○ 2019 年の運動会への 1 人の学生の参加に始まり、2021 年 5 月に学生による大学公認サークルの立ち上げに至ったことは、学生の町内</p>	

	での活動を継続性のあるものにする上でも価値があった。サークルの代表学生を窓口として、日常的な地域住民とのコミュニケーションが深まってきており、平素の関係構築が有事の防災行動につながることを感じている。
--	--

<b>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</b>	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学 地域連携課 愛知教育大学 学生団体「かきつばたの民」
関係者の説明	
関係者の連絡先	

<b>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</b>	
伝えたい相手	
伝えたい内容	実践力育成科目・井ヶ谷町内会コース（試行）が先進事例となるようチャレンジプランをとおして学生の学びを支援していきます。

記入日	西暦 2022 年 1 月 10 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 2
タイトル	町内防災運動会 第 40 回記念大会
実践担当者のお名前	樋江井 守 (井ヶ谷町内会体育部長)

実践にかかった金額	円 10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 10 月 17 日 9 時 00 分～15 時 00 分 ※活動は新型コロナ感染拡大のため直前中止/計画のみ
実践の所要時間	0 時間
実践の運営側で動いた人の人数	40 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・中学生・高校生・大学生・外国人留学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・障がい者・養護学校児童生徒・高齢者
防災教育の対象者の人数	約 250 人 (参考値: 2019 年度の参加者)
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所	愛知教育大学グラウンド ※活動は新型コロナ感染拡大のため直前中止
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	大学生が、例年多くの住民が参加する運動会の、企画・運営、当日の競技に参加することにより、地域の行事をとおして地域住民が交流を深め、防災意識を高めることに意義とよさを体験的に理解する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

○ 町内で毎年秋に実施し 40 回記念大会を迎える運動会に防災競技を取り入れ、災害時の避難場所となる町内の大学のグラウンドを会場に実施する。2021 年度の実践では、大学の保健体育講座に協力依頼し、防災競技 3 種目を開発した。運動会は 2 年連続で中止となっている。大学生も準備に関わりながら、来年度以降の授業の単位化においても中心となる実践である。

since 1979  
IGYS  
井ヶ谷町内大運動会 第40回記念大会

**出場選手募集開始!**

入場門  
第39回  
井ヶ谷町内秋季大運動会  
主催井ヶ谷町内会

充実しています  
1-3 等景品&  
参加賞!!

親子で参加!  
新防災競技が  
できました

愛教大生が教える  
スポーツ教室  
あります!

日時: **2021年10月17日(日)** ※予備日24日(日)  
場所: **愛教大グラウンド (災害時避難場所)** ※駐車場有

出場希望の方は、下記へ連絡いただくか、  
申込用紙を市民館ポストへ投函ください。

1組 組長  
2組 組長  
3-1組 組長  
3-2組 組長  
4組 組長  
5組 組長  
井ヶ谷市民館  
ig

愛知教育大学  
正門  
運動会  
駐車場

組	氏名	住所	連絡先	出場希望種目

選手募集のポスター。今年度は町内へ2回の案内を行った。

得られた成果

○ 学生団体の代表・副代表に年度当初より、体育部の会議・町内会と大学（地域連携課）との会議に同席してもらい、町内行事の実施へ向けて準備を行う過程を体験してもらうことができた。ポスターの作製など実務を手伝ってもらうことをとおして、学生が、町内の人とより深くかかわる場を設定できた。

○ 次年度の大学での試行的な授業単位化の中心的な活動となる運動会の一連の運営の流れについて、確認することができた。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	<p>○ 2020年、2021年と2年にわたって運動会が中止となったが、その期間を新たに大学と学生を巻き込んで町内が一体となって運動会を実施するための企画をあたためる時間と考え、大学との連携づくりを進めてきた。第40回記念大会への期待もあり、オンラインで小規模に実施するという案はなく、対面での実施にこだわってきた。この2年今年度の新春ウォーキング(実践4)をのぞいてほとんどの町内会行事が実施できておらず、その間の連絡や活動の維持には苦労している。</p> <p>○ 四十数年の歴史ある運動会の実施場所を町内から大学グラウンドに移すことに際して、町内会本体で随分と協議していただいた。連携を一時のものでなく、今後も継続的・発展的なものにする必要がある。</p>	

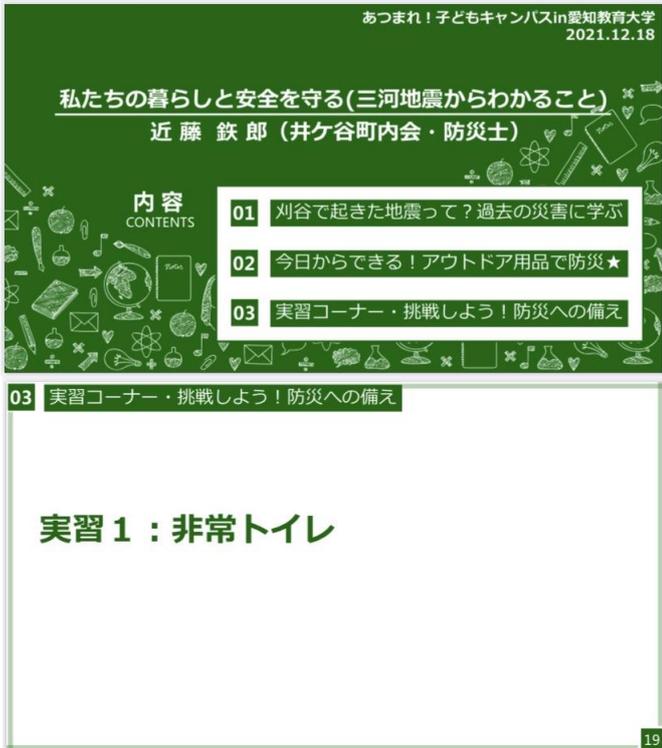
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学 地域連携課
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	2022年度、実践の総仕上げとして記念大会の開催に向けて頑張っていきます。

記入日	西暦 2022 年 1 月 10 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 3
タイトル	子ども向け防災講習会
実践担当者のお名前	近藤 鉄郎 (体育部長補佐/LOGOS)

実践にかかった金額	円 3 万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 12 月 19 日 15 時 00 分～16 時 00 分
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	大学主催行事のため不明
防災教育の対象者の属性	小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・大学生・保護者/PTA
防災教育の対象者の人数	約 15 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所	愛知教育大学
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	大学生が、子ども向けの防災講習会の企画・運営をとおして、将来、学校で防災教育を担う教師のひとりとして必要となる知識・技能を身に付け、日常の防災行動について考え、実践する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

<p>実践内容・方法</p>	<p>○ 連携先の大学より依頼を受け、大学のイベント「あつまれ！子どもキャンパス in 愛知教育大学」で子ども向けの防災講習会を実施した。アウトドア用品企業（LEGOS）での経験を活かして、非常トイレや簡易テントを用いた実演・実習を取り入れながら、子どもと保護者に、地元三河の過去の災害の様子や、防災や安全についての知識をわかりやすく解説した。</p> <p>○ 大学生向けの講習を2022年1月に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大にともなって中止とした（2022年度に実施予定）。</p> <p>○ 講習の構成・内容（一部）</p>  <p>講習では、防災用品を活用した実習もおこなった</p>
<p>得られた成果</p>	<p>○ 講習担当者が、オンライン防災教育交流会で学んだ知識や情報を、活用し伝える機会となり、次の学びへの意欲につながった。</p> <p>○ 運営に参加した学生が、子どもに対して防災教育を実践する方法や意義について体験することができた。</p> <p>○ 参加した子どもや保護者が、地域に密着した防災の話題にふれ、防災用品を使った実習をとおして防災意識を高めることができた。</p> <p>○ 子ども向けの防災講習は、大学生の学びの実践として意義のあるものであった。授業単位化に際してもプログラムの中に位置づけていく必要がある。</p>

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦勞・工夫	<p>子ども向けにわかりやすく話すための工夫については、実習等の活動で子どもとかかわる機会の多い大学生から助言を得ることができた。今後、大学生と町内会がいっそう連携を深めることで、より幅広い世代への発信が可能になると感じた。</p> <p>伝える立場として防災に関する情報を常にアップデートしていく必要がある。オンライン交流会は大いに役立ち、刺激になっている。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学 地域連携課
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	防災について、子どもにわかりやすく語ることでできる教師の養成、そのための知識や経験を、大学時代に身につける重要性について。

記入日	西暦 2022 年 1 月 10 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 4
タイトル	新春ウォーキング
実践担当者のお名前	樋江井 守 (井ヶ谷町内会体育部長)

実践にかかった金額	円 10 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 1 月 9 日 9 時 00 分～11 時 00 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	25 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・中学生・高校生・大学生・外国人留学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・障がい者・養護学校児童生徒・高齢者
防災教育の対象者の人数	約 200 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所	洲原神社・洲原公園・愛知教育大学
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	大学生の ICT 活用能力

達成目標	地域住民が指定避難所である町内の大学のキャンパスの様子や防災設備について知り、災害時に大学・地域が連携するための知識・技能を身に付けるとともに、ともに活動することをとおして連携関係を深めること。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

○ 体育部が中心となって企画する新春ウォーキングを、初めて大学内をコースの一部として設定し（従来は地図の右半分、池の周回のみ）災害時の指定避難所である大学の防災施設や体育館を見学した。



大学生作成のマップ。Web と連携し写真を見ることが出来る。後日、回覧板で参加していない町民にも周知を図った。



キャンパス内のかまどベンチを見学する参加者



災害時の指定避難所となる体育館

- 新型コロナ対策として、これまで実施していた集合場所での飲食の振舞いや子ども向けのゲーム等イベントは中止し、密集しないように十分注意しながら行った。感染者が増え始めた地域もあり参加者数が心配されたが、例年と同程度の 200 名ほどの参加があった。
- 地域住民にとって、日頃大学キャンパスに足を運ぶ機会は少なく、避難場所を確認する貴重な機会となった。
- 参加賞として賞味期限の近い非常食を配布し、参加した地域住民、学生の防災意識を高める機会とした。
- 大学より、学長・地域連携センター長が参加され、大学施設の紹介や災害時の連携に関して、地域住民に説明いただく機会を設けた。

得られた成果

- 防災運動会の企画から継続して、大学生に会議等に参加してもらうことで、新春ウォーキングでは初めて ICT を活用したマップの作製という新たな取り組みにチャレンジした。ネット上の地図と連携したウォーキングマップを後日回覧版で見てもらい、参加しなかった住民にも追体験できるという試みは、幅広い世代に好評であった。町内会における ICT を活用したオンラインベースの活動の可能性を探る意味で価値ある取り組みであった。
- 防災運動会の直前での中止を受けた、体育部長の発案による急遽、大学内をコースに加えた運動会の代替企画としての大学との連携行事であったが、井ヶ谷町の地域防災において有意義な実践となった。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	井ヶ谷地域の住民が、町内の行事でキャンパスを使用させていただくことが初めてのチャレンジであった。準備において、大学窓口の地域連携課や担当教員の方には細かな対応をいただき、課題をクリアしながら実施に至った。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学 地域連携課
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	災害時の指定避難所をまずは、見てみることに、足を運んでみることに。そのための機会をつくることの大切さについて。